

<実践報告>

中学校社会科における「歴史的な見方・考え方」を高める授業の構想
—単元「江戸幕府のなぞにせまる」の開発と実践を通して—

矢澤拓真 信州大学教育学部附属長野中学校
 武井正樹 信州大学教育学部附属長野中学校
 小池克昌 信州大学教育学部附属長野中学校
 篠崎正典 信州大学学術研究院教育学系

Creating Lessons for Enhancing “Historical Perspectives”
in Junior High School Social Studies:
Design and Practice of the Unit “Approaching to the Mystery of the Edo Shogunnate”

YAZAWA Takuma: Nagano Junior High School Attached to Faculty of Education,
Shinshu University

TAKEI Masaki: Nagano Junior High School Attached to Faculty of Education,
Shinshu University

KOIKE Katsumasa: Nagano Junior High School Attached to Faculty of Education,
Shinshu University

SINOZAKI Masanori: Institute of Education, Shinshu University

研究の目的	本報告の目的は、中学校社会科において「歴史的な見方・考え方」を高めるための方法と実践上の課題について、単元「江戸幕府のなぞにせまる」の開発と実践を通して見出すこと。
キーワード	中学校社会科 歴史的な見方・考え方 課題解決
実践の目的	中学校社会科歴史的分野の授業改善
実践者名	第一著者と同じ
対象者	信州大学教育学部附属長野中学校1年次（40名）
実践期間	2017年1月
実践研究の方法と経過	①「歴史的な見方・考え方」を定義し、それを高めるための単元を構想する。②構想した単元を実践し、学習過程と学習後における生徒の「歴史的な見方・考え方」の高まりを検証する。
実践から得られた知見・提言	方法：学習カードの使用，ルーブリックを用いた評価の実施，実態把握により，生徒の学習の深まりや変容を確認しながら指導を行うこと。 実践上の課題：生徒の実態把握と評価法をより充実させること。

1. はじめに

2017（平成 29）年の学習指導要領の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が強調され、各教科では「見方・考え方」を働かせた課題解決的な学習を行うこととなった。これを受けて、『中学校学習指導要領解説 社会編』（以下、『新要領』）では、「社会的な見方・考え方」を導入した。「社会的な見方・考え方」は、「地理的な見方・考え方」「歴史的な見方・考え方」「現代社会の見方・考え方」から構成される。このうち、歴史的な分野で扱うのが、「歴史的な見方・考え方」である。

「歴史的な見方・考え方」は、「社会的な事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること」（中央教育審議会 2016）と定義される。中学校歴史的な分野では、この「歴史的な見方・考え方」を働かせた課題解決的な学習を行うことで、教科書を教えることを優先し、生徒の思考力や生きて働く知識・技能の習得に支障を来してきた従来の学習を、「公民としての資質・能力の基礎」（原田 2017）を育成する学習へと変革することが期待されている。

一方で、「歴史的な見方・考え方」は、今回の学習指導要領の改訂で新たに導入されたものである。したがって、その重要性は認識されつつも、具体的な使用方法についてはこれからの研究課題である。

「歴史的な見方・考え方」に関わる代表的な実践研究として、草原（2017）がある。草原他（2017）では、「歴史的な見方・考え方」を働かせるための方法とその働きを可視化して捉える方法を検討している。これにより、思考ツールの活用による「歴史的な見方・考え方」を働かせる場面と「知識の構造」を構築させる活動、論争的な問いを設定して「知識の構造」を分析させる活動の設定という 3 つの指導原則、ルーブリックによる学習の成果物の分析を通じた生徒の歴史認識の深まりを捉える方法が明らかになっている。

本実践では、草原他（2017）の研究成果に学びつつも、生徒が主体的に「歴史的な見方・考え方」を働かせるためには、生徒の「歴史的な見方・考え方」そのものを高める方法について模索することから始める必要があると考える。

2. 研究方法

2.1 生徒の実態

本実践の対象者は、信州大学教育学部附属長野中学校の 1 年次 40 名である。

本実践では、事前に生徒の実態をつかむための質問紙調査を実施した。質問項目は、本単元の学習内容への生徒の関わりを単元の評価基準の 3 観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）から把握するために設定した以下の 4 つである。

- | |
|--|
| 質問 1 室町時代について知っていることは何ですか。 |
| 質問 2 江戸時代について知っていることは何ですか。 |
| 質問 3 江戸時代に興味はありますか。その理由はなんですか。 |
| 質問 4 江戸時代に関わる本を読んだり、テレビを見たりしたことはありますか。 |

この調査で明らかになったことは次の2つである。1つ目は、多くの生徒が複数の社会的事象を関連させて考察する力が弱いことである。質問1より、為政者名（足利尊氏，足利義満等），建築物（金閣，銀閣等），幕府の政策（南北朝の統一，勘合貿易等），文化（水墨画，能等）等の歴史的な事象を知っている生徒が多いことが分かった。しかし、それぞれの関わりや影響を思考・判断する力は十分ではない。質問2より、徳川家康，徳川家光，武家諸法度，参勤交代等の用語は知っているが，質問1と同様に事象同士の関わりを説明できた生徒は少数であった。2つ目は、多くの生徒が，江戸時代に高い興味を持ち，学習に対する期待を持っていることである。質問3より，江戸時代に興味がある生徒は全体の9割であった。それは、「小学校のときに十分学習ができていないから」「どのようにして平和な世の中をつくったのかを知りたい」「江戸時代が長く続いた理由を知りたい」という意見が多かったからである。質問4より，8割の生徒が「江戸時代にかかわる本やテレビを見たことがある」と回答した。その中の多くの生徒，歴史漫画，時代劇について記述していた。この質問からも，生徒は江戸時代に興味をもっていることが分かった。

以上を踏まえ，用語を覚える，知ることで満足をすることなく，「なぜ」「どのようにして」といった生徒のもつ問いを大切にしながら，歴史的な事象を多面的・多角的に捉えていくための問題解決的な学習を設定する必要がある。

2.2 研究方法

以上を踏まえ，本実践では，生徒の「歴史的な見方・考え方」を高める指導の方法と実践を行う上で生じる課題を明らかにすることを目的とする。そこで，次の2つの方法を用いる。第一は，「歴史的な見方・考え方」を定義し，それを高めるための単元を構想すること。第二は，構想した単元を実践し，学習過程と学習後における生徒の「歴史的な見方・考え方」の高まりを検証すること。

3 「歴史的な見方・考え方」を高めるための単元開発

3.1 「歴史的な見方・考え方」の定義

本実践では，『新要領』の内容を踏まえ，「歴史的な見方・考え方」を「歴史学習において考察したり，選択・判断したりする際の視点や方法（考え方）として用いられるもの」と捉える。その上で，その内容を『新要領』の歴史的な分野の目標(2)(3)（文部科学省 2017）を踏まえて「見方」「考え方」の点から整理し，表1のようにまとめた。

表1 「歴史的な見方・考え方」の定義

歴史的な見方の基本	歴史的な考え方の基本
<ul style="list-style-type: none"> ・時期，年代などの時系列に関わる視点 ・展開，変化，継続など諸事象の推移に関わる視点 ・類似，差異，特色など諸事象の比較に関わる視点 ・背景，原因，結果，影響など事象相互のつながりに関わる視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色や，事象相互の関連を多面的・多角的に考察する (A) ・歴史に見られる課題を把握して，学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する (B)

3.2 教材化の視点

本実践では、江戸幕府の貨幣経済を教材化する。江戸幕府は、家康・秀忠・家光の武断政治により、武士による全国支配の仕組みを構築し、260年間に渡る幕藩体制を実現した。その長期政権の基盤となったのが、「政治」「身分」「貿易」「経済」の4つの視点である。

「政治」では、武家諸法度や元和令により、城修復の制限・新築の禁止、大名間による無許可の婚姻の禁止を諸大名に指示し、寛永令で参勤交代を実施した。また諸大名を親藩、譜代、外様に分け、親藩と譜代は江戸周辺や要地に、外様は江戸から離れた地に配置して敵対勢力を排除するとともに、全国の約4分の1の支配地や鉱山等を天領とした。幕府内では、将軍の下に譜代から選出した老中を置いて政務を取り仕切らせた。

「身分」では、豊臣秀吉の兵農分離の政策を踏襲して武士・町人・百姓という身分をはっきりさせ、特権、住居、職業、支配身分と被支配身分という社会的地位を明確にした。それにより、武士は戦のための軍人的性質から役人的性質へ、百姓は、本百姓、水のみ百姓に分けられて生活が細かく規定され、確実な年貢の納入義務を課せられた。また、絵踏みや宗門改め帳の作成を行い、幕府を貶める恐れのあるキリスト教勢力を一掃した。

「貿易」では、朱印船貿易によって東南アジアを中心に貿易を促進した幕府が、キリスト教の拡大を警戒したことで秀吉の禁教政策を一層強め、キリスト教の布教に関わりのある国との貿易を禁止し、オランダとの貿易も出島に限る等の制限を加えた。この中で、朱印船貿易を禁止し、諸外国との貿易、海外渡航にも制限を加えた鎖国政策によって、産業や文化に与える外国からの影響は大きく制限されることとなった。一方で、幕府は限られた外国との貿易による利益、海外からの情報を独占することが可能となった。

「経済」では、佐渡金山、石見銀山等の鉱山を直轄地とし、貨幣の铸造を独占した。同時に、全国の領地の約4分の1を幕府の直轄地とし、安定した年貢収入を得たことが政治運営の財政基盤となった。また、参勤交代によって徳川家以外の諸大名の財力を消耗させた。また、百姓という身分を明確化し、安定した年貢の徴収は幕府財政の約6割を支えた。貿易面では鎖国政策により、幕府が貿易による利益を独占した。

そこで本単元では、江戸幕府が長期政権を維持できた理由を「政治」「身分」「貿易」「経済」の4視点から追究し、最も影響を与えた事象を考えることで、「歴史的な見方・考え方」を働かせて合理的に判断することができる力を高めることを目指す。

3.3 単元の構想

A. 単元名・学年（時間） 「江戸幕府のなぞにせまる」・1年（5時間扱い）

B. 単元の目標

- ①幕藩体制を確立した江戸幕府の諸政策の内容と目的、および農村の様子、鎖国下の対外政策を理解し、その知識を身に付けている。（知識・技能）
- ②人々を支配するために江戸幕府が行った政策に関する資料を収集して、有用な情報を適切に選択し、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。（知識・技能）
- ③幕藩体制の確立や貿易の独占のために行った政策、および農村の様子から課題を見出

し、鎌倉・室町時代に行われた政策と比較しながら多面的・多角的に考察し、公正に判断して、調査の過程や結果を自分の言葉で表現することができる。(思考・判断・表現)

- ④幕藩体制の仕組みや、鎖国政策、身分制度といった江戸の成立期に行われた諸政策に対する関心を高め、意欲的に追究している。(主体的に学習に取り組む態度)

C. 単元の評価規準

表2 単元「江戸幕府のなぞにせまる」の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「大名配置」「武家諸法度」「職制」「身分制度」「鎖国政策」といった江戸幕府の諸政策の内容と目的、影響について理解し、その知識を身に付けている。 ②室町・江戸幕府が行った武家、庶民を支配するための手段を示す有用な情報を効果的に調べたり図表などにまとめたりしている。	③室町・江戸時代に行われた武家を支配するための政策を「政治」「身分」「貿易」「財政」の4つの視点で比較しながら多面的・多角的に考察し、調査の過程や結果を自分の言葉で説明している。	④幕藩体制確立のために江戸の成立期に行われた幕府の諸政策に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。

D. 単元展開

表3 単元「江戸幕府のなぞにせまる」の展開

段階	学習活動	◇教師の指導・援助 ◆予想される生徒の意識	○評価規準 ※評価方法	時間
導入	1 単元の学習問題を設定し、問題解決に向け、予想を立て、調べる視点を決定する。	◇武家政治が行われた鎌倉、室町、江戸時代の政権の長さを比較するように活動を位置付ける。 ◆鎌倉幕府が最も短期間で滅んでいることが分かる。 ◆江戸時代は他の時代と比べて260年も政権が続いている。 ◆鎌倉幕府や室町幕府と比較して、なぜ江戸時代は260年もの間続いたのだろうか。 単元の学習問題:なぜ江戸幕府は260年も長く続いたのだろうか ◆鎖国をすることで外国からの攻撃を防いだり、キリスト教徒に反抗をさせなかったりしたのではないか。 ◆多くのお金を稼いで軍事力を強化したのではないか。 ◇生徒の予想から学習問題を解決するために「政治」「身分」「貿易」「経済」の4つの視点を設定し、視点をグループ内で分担し、一つの視点を追究するように促す。(ジグソー法) ◆予想を「武士が幕府に反抗できないような仕組みを作った」とし、「政治」を選択した。江戸幕府はこれまでの幕府と政治面どのような違いがあったのか、調べてみよう。	④幕藩体制の確立のために、江戸の成立期に行われた幕府の諸政策に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	1
追	2 資料を収集して、必要な情報を選択する。	◇エキスパート活動に分かれ、予想を調査するための歴史的事象の要因や背景、推移を明らかにする資料を収集し、必要な情報を選択する活動を位置付ける。 ◆武家諸法度と幕府の仕組み、大名配置を選択した。これまでの幕府が行ってきた政策と比較させるとよいと思う。 ◆守護が治める国から大名の治める藩への変化を示す資料、これまでの幕府と異なる政治を示す資料を選択しよう。	②室町・江戸幕府が行った武家、庶民を支配するための手段を示す有用な情報を効果的に調べたり、図表などにまとめたりしている。	1

究	3 エキスパート活動で、収集した資料を「フリップボード」にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習問題を解決するために選択した情報をまとめたり図式化したりして、「フリップボード」にこれまでの幕府との比較や江戸幕府が行ったことによる影響を示しながら資料をまとめるように活動を位置付ける。 ◇それぞれの視点から重要だと考える事柄を抜き出し、キーワードにするよう説明する。 ◇4つの視点から、「江戸幕府は○○によって260年間続いた。」と説明ができるよう、まとめの方法を説明する。 ◆予想したように、幕府は各地の大名を厳しく取り締まるための法律を出していることが分かった。 ◆江戸幕府は、武家諸法度や大名の配置の工夫において、大名を統制し、幕府に反抗できない状況を作り上げたことで260年続けることができたことが分かった。 	②室町・江戸幕府が行った武家、庶民を支配するための手段を示す有用な情報を、効果的に調べたり、図表などにまとめたりしている。 ※フリップボード、学習カード	1
	4 それぞれの視点から意見交換をする。	<ul style="list-style-type: none"> ◇エキスパートで作成した「フリップボード」をグループに持ち寄り発表をし、それぞれの視点からいえる江戸幕府の取り組みを考えるように活動を位置付ける。 ◆友の発表を聞いて、政治面だけが260年続いた理由ではなく、さまざまな要因が背景にあることが分かった。 ◆「政治」の視点では、武家諸法度と大名の配置が大名に反抗をさせないために特に大事な事柄だといえるので、この2つをキーワードとしよう。 	①江戸幕府の諸政策の内容と目的、影響について理解し、その知識を身に付けている。	1
まとめ	5 キーワードをランキングにし、本時の学習問題の答えを文章でまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ◇本時の学習問題を提示し、学習問題に対する答えをまとめるように活動を位置付ける。 ◇まとめをするために、4つの視点のキーワードの理由を明確にして、ピラミッド型ランキングにするよう説明する。 ◆江戸幕府は、武家諸法度、鎖国、身分政策などを通じて、幕府に反抗する可能性のある大名や百姓を統制し、安定した財源を確保することで、260年の長期政権を維持することができたことが分かった。 	③室町・江戸時代に行われた武家を支配するための政策を4つの視点で比較しながら多面的・多角的に考察し、調査の過程や結果を自分の言葉で説明している。	1

3.4 本時の展開

本時は、「歴史的な見方・考え方」を働かせて学習問題を考察して合理的に判断することに重点を置く。そのため、各段階は以下のような構成をとる。

「問題把握」では、4つの視点に着目し、単元の学習問題を解決する上で最も重要な視点を導き出す。次に、最適な事柄を選択する方法について問い、学習課題を設定する。

「追究」では、異なる視点で追究してきた生徒同士が、自分の資料に基づいて幕府の特色を意見交換する。この際、図1のようにキーワード化された歴史的事象を相互に比較・関連させながら、線（類似、因果関係）や矢印（時期、推移）を用いてつながりを理解できるようにする。これにより歴史的事象を多面的・多角的に考察し、見方・考え方の働きを可視化でき、合理的に判断することができる。

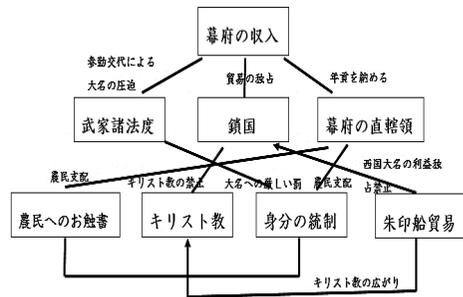


図1 ピラミッド型ランキングカードの例

A. 主眼

江戸幕府が260年に渡る長期政権を築くことができた理由を考える場面で、4つの視点

から出されたキーワードに着目して、友と意見交換をしながら矢印や線をつなげて影響が大きかった事象を選び出すことを通して、幕府は安定した財源を確保することで、長期政権を維持することができたことを説明できる。

B. 本時の評価規準

最も影響の大きかった事項を経済の視点から考察し、自分の言葉で説明している。

C. 展開

表4 単元「江戸幕府のなぞにせまる」(第5時)の展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助	時間	備考
問題把握	1 本時の学習の見通しをもつ。	学習問題：あなたはクラスで歴史評論家といわれる人物です。同じクラスの〇〇さんが、NHK大河ドラマ直虎を見て、戦いの多かった戦国時代からなぜ 260 年も戦いのない江戸時代へと変わることができたのかとあなたに聞いてきました。これまで調べてきた4つの視点から、江戸時代が長く続いた理由として最もふさわしいキーワードを選び出して、説明してください。		5分	学習カード
	2 友と意見交換をしながら、最も影響のある出来事を明らかにする。	ア 自分で調べたキーワードと友の調べたキーワードの共通点や相違点を比較するために、ピラミッドにして並べると、最も影響を与えた出来事が分かる。 学習課題：キーワードのつながりに着目して、友と意見交換をしながら矢印や線を引いて、ピラミッド型ランキングを作ろう。	◇アのようなランキングに触れた考えを全体に位置付け、学習課題を設定する。		
展開	3 グループで話し合ったことを全体で共有する。	イ ピラミッドの頂点に「貨幣」と置き、2段目に「参勤交代」を入れることができる。その理由としては、大名の経済力を削ることで幕府が他藩よりも有利になったと思う。 ウ 2段目に「鎖国」を入れることができる。頂点の「貨幣」と線を結び、その理由を貿易を独占することで、幕府に多くのお金が入ってきたことが言える。 エ 3段目に「絵踏み」を入れ、「鎖国」と矢印で結んで、その理由を「キリスト教の弾圧」と記入できそうだ。 オ 4つの視点から出したキーワードは全て「経済」のキーワードと繋がるが見えてきた。	◇各視点から出されたキーワードをランキングに並べるようにする。 ◇キーワードを整理しながら、他の視点から出されたキーワードと関連することについて話し合うようにする。 ◇ランキングにする際には、関連する歴史的な事象を線や矢印で結びながら、その理由を記入していくようにする。 ◇机間巡視の中で、オヤカのようにグループで重要と考えたキーワードに対して、考えた理由や他の事象とのつながりを確認していく。 ◇グループで考えたランキングを発表し、最も影響を与えたキーワードとその理由を発表するようにする。 ◇最も影響を与えたキーワードが同じグループから発表をして、その後異なるキーワードを選択したグループが発表をするよう促す。	20分	フリップボード
	4 課題に対する自分の考えを記入する	カ 「貨幣」を最も影響を与えた事柄にすると、すべての出来事に線や矢印が引けて繋がった。理由を説明するためには「貨幣」が重要だといえる。 キ 最もふさわしい事柄を「貨幣」にした。「貨幣」はすべての視点のキーワードと結ぶことができるし、幕府はお金がなくては政治を行うことができないからだ。 ク 「武家諸法度」「貿易の制限」「百姓」「朱印船」など、全ての視点のキーワードが「経済」の視点に影響してくることが分かった。経済の「貨幣」のキーワードがピラミッドの頂点にきた。	◇機間巡視の中で、オヤカのようにグループで重要と考えたキーワードに対して、考えた理由や他の事象とのつながりを確認していく。 ◇グループで考えたランキングを発表し、最も影響を与えたキーワードとその理由を発表するようにする。 ◇最も影響を与えたキーワードが同じグループから発表をして、その後異なるキーワードを選択したグループが発表をするよう促す。	15分	ランキングカード
まとめ		コ 江戸幕府が 260 年続いた理由は、幕府が他の大名よりも圧倒的に大きな財力をもっていたからだ。幕府は武家諸法度で参勤交代を命じ、大名の財力を削り、百	◇全体共有の中で、最も影響を与えた視点はどれかについて確認をする。 ◇本時の課題について、自	10分	

と め	姓と言う身分をつくり年貢を確実に納めさせ、鎖国をすることで貿易を独占し、鉱山を独占して貨幣の製造を独占するなど、幕府にとって経済面で有利に働く政策を多く行ってきたからです。	分の言葉で整理し、学習カードに記入するように促す。		
--------	--	---------------------------	--	--

「まとめ」では、学習問題に対する考えを記入する。生徒は、ピラミッド型ランキングに基づき、長期政権を実現した理由を頂点の歴史的事象から導き出し、それが様々な事象と関わることを文章化することで、歴史的事象を考察するための「思考力、判断力、表現力」を高めることができる。なお、評価は、三藤・西岡（2010）をもとに作成したループリック（表5）により、多面的・多角的であるか、合理的に考えるための根拠をもっているかを記述内容から行う。

表5 ループリック

3 すばらしい	江戸幕府が260年続いた理由を、根拠を明確にして、複数の視点に立って合理的に説明できている。
2 合格	江戸幕府が260年続いた理由を、根拠を明らかにしながら合理的に説明できている。
1 もう一歩	江戸幕府が260年続いた理由の根拠が明らかになっておらず、合理的でない。

4. 生徒における「歴史的な見方・考え方」の高まりと課題

4.1 本時における学習の深まり

「経済」の視点から追究をしてきたOは、他の生徒と以下のような意見交換を行った。

A：一番重要なキーワードは幕府の収入ではないでしょうか
K：私もそう思います。なぜなら年貢や貿易の利益独占のカードがお金に関するものだからです。
O：私もそれがいいと思います。年貢が幕府の収入の大部分を占めていたことが私の調べたところでわかりました。なので、そのことを紙に書いて線でつなげればいいと思います。
A：分かりました。そうします。年貢につながるものはありますか。
K：五人組がつながりそうです。五人組は百姓に出された連帯責任でしたよね。
O：なるほど。そうですね。年貢と五人組はつながりそうですね。

調べてきた「経済」の視点から幕府の収入の重要性に言及したOの発言は、他の生徒と一致した。さらに、Oは、年貢と五人組という「経済」と「身分」の視点が繋がることを他の生徒の発言から気付き、見方を広げることができた。この意見交換の中で、Oのグループは、図2のランキングを完成させた。「経済」の視点である「幕府の収入」を最重要キーワード、「年貢」を次に重要なキーワードとしてそれぞれを結びつけ、幕府の収入源のNO.1を年貢と記入した。さらに「年貢」を「身分」の視点である「五人組」と結びつけ、百姓に年貢を確実に納めさせる「連帯責任」と記入した。また、「貿易」の視点の「貿易の利益独占」は、幕府だけが利益を得ることで、商人や大名の収入源を減らし、幕府の財力が商人の財力を上回るとした。さらに「鎖国」と結び付け、幕府以外は外国との関係をもてなかったと記入した。これらから、鎖国や五人組による影響、年貢や貿易の利益独占による結果という見方、幕府、農民、大名、商人という複数の立場、「政治」「経済」「貿易」「身分」という複数の視点からキーワードを選択することができていることが示唆される。一方で、図3のように、線や矢印のつながりの理由を明確にできないグループもあった。

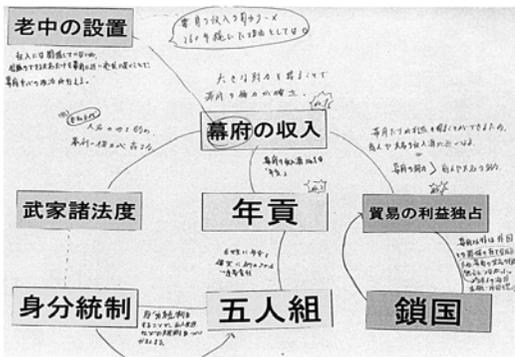


図2 つながりの明確なランキング

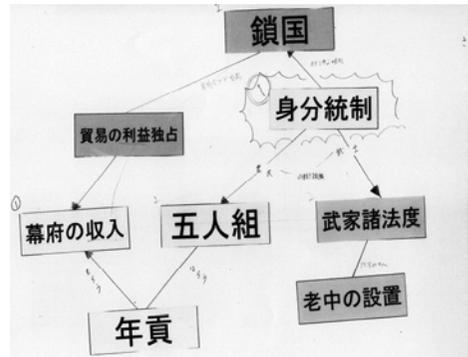


図3 つながりの不明確なランキング

このグループは①こだわりの強さ、②話すことが苦手、③知識・理解の不十分さによる根拠の選び出しの困難さ、という生徒の状況が話し合いの深まりを阻害したと考えられる。生徒の到達度を詳しく確認し、生徒の実態に合った支援を行う必要性が明らかになった。

4.2 単元終了後の学習の深まり

以下に示す○のまとめが、本単元のねらいを達成しているかをループリック（図1）で評価した。○は「政治」「身分」「貿易」「経済」の複数の視点から根拠を記入し、幕府だけでなく百姓や大名の立場にも考えがおよびそれぞれが幕府の収入を増やし権力を高めたことを合理的に説明できている。よって、○は3の「素晴らしい」と評価することができる。

江戸幕府が260年続いたのは、江戸幕府の多種多様な政策によって幕府の収入を上げ、権力を確立させたためである。なぜなら、江戸幕府は、身分統制、五人組により、百姓に年貢を強制的に納めさせたり、鎖国の体制を整えることにより、貿易の利益を独占したり、さらには武家諸法度によって大名の力を弱めたり、幕府の権力を高めるために政策を多数打ち出した。これらの政策により幕府の権力が確立されたためである。

一方で、以下のように評価を「もう一步」とした生徒もいる。この生徒は、幕府の収入の重要性を記述できたが、その根拠がキーワードを並べただけになっているためである。

江戸幕府が260年も続いた一番の理由は、経済面。幕府の収入を多くするために、身分統制や貿易の利益独占、武家諸法度を行った。

4.3 単元を通した学習の深まり

○の事前調査、第1時の導入場面における予想、単元のまとめの記述、の3つから学習の深まりを確認できた（表6）。○は、事前調査では、小学校で学習した徳川家康、徳川家光、徳川慶喜3名、武家諸法度や参勤交代という為政者が行なった政策に触れてもいるが、これらが江戸時代に与えた影響は記述していない。また、為政者の立場から江戸時代を捉えていることも見受けられる。しかし、○は江戸時代に関心があり、歴史漫画や江戸時代に関わるテレビ番組を見るなど、ある程度の歴史事象についての知識を持つ生徒であった。

第1時では、幕府に反抗する勢力（主に外様）が反乱を起こさないことが長期政権の理由であると考えた。意見交換では、室町時代の戦乱との比較や財政面に関心を持つなど、多面的・多角的な思考が徐々に芽生えていった。その後、「経済」の視点から追究を行い、「幕府は幕領として全国の4分の1を支配し、農民からの年貢の納税や貿易による利益に

表6 Oの学習の深まり

事前調査	1603年、徳川家康が征夷大將軍になり始まる。3代將軍家光が参勤交代を行う。15代將軍徳川よしのぶ（漢字を忘れてしまった）に後の明治政府（勝海舟ら）から江戸城の明け渡しを要求され、大政奉還がなされる。武家諸法度の発布。鎖国（出島）
第1時	江戸幕府側への外様大名とかの反乱が禁止されていたから、大きな争いがない。
単元のまとめ	・全国の領地の1/4を幕領とした。→他の大名に比べて圧倒的財力を得た。・農民からの年貢の納入（幕府収入の約6割を占める）や、・貿易やその利益の独占（中国、オランダ〔長崎〕、朝鮮〔対馬〕、琉球王国〔薩摩〕、アイヌ民族〔松前〕）に比べて利益を独占→これらにより、財政が豊かだったため260年続いた。

支えられ非常に財政が豊かであった」とまとめている。ここから、Oは「経済」の視点から幕府が財政を豊かにするために、「政治」や「貿易」等のつながりが見え始めていることが分かる。しかし、この段階では4つの視点との関係までには追究が至っていない。

以上から、学習カードへの単元を通して考えたことの記入、ルーブリックを用いた評価により、生徒の学習の深まりや変容を確認できたことは、「歴史的な見方・考え方」を働かせて多面的・多角的に事象を捉える力を高める上で有効であった。また、学習開始前の生徒の実態調査により、生徒の知識や思考の土台を把握できたことも指導の指標になったと言える。よって、今後は、生徒の実態調査とルーブリックのより確かな改良を行うことで、生徒一人一人の「歴史的な見方・考え方」を高める指導方法の構築につながると考える。

5. おわりに

本実践より、学習カードへの単元を通して考えたことの記入、ルーブリックを用いた評価、学習前の生徒の実態把握により、生徒の学習の深まりや変容を確認しながら指導を行うことは、「歴史的な見方・考え方」を高める上で有効であることが示唆された。また、実践上の課題として、①協働的な学びあいの中で活動が停滞する生徒への教師側の働きかけと生徒の実態把握の在り方、②ルーブリックの改良によるより客観的な評価法の導入、の2点が明らかになった。本実践の成果を踏まえ、引き続き授業研究を深めていきたい。

文献

- 草原和博他，2017，歴史的な見方・考え方の働きはいかに可視化できるか，広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 66，pp.41-50
- 坂上康俊，戸波江二，矢ヶ崎典隆他，2016，新編 新しい社会 歴史，東京書籍
- 中央教育審議会，2016，幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善（答申）
- 原田智仁，2017，「これからの歴史学習」に求められるものとは一見方・考え方の視点から一，社会科教育 699，pp.4-7
- 三藤あさみ，西岡加名恵，2010，パフォーマンス評価にどう取り組むかー中学校社会科のカリキュラムと授業作りー，日本標準
- 文部科学省，2017，中学校学習指導要領解説 社会編

(2018年9月28日 受付)